

# 令和4年度 学校自己評価

丹波篠山市立篠山養護学校

評価 A: ほぼあてはまる B: ややあてはまる C: あまりあてはまらない D: ほとんどあてはまらない

検討する  
分掌

評価項目	自己評価(%)				総合 評価	成果・課題・改善策		
	A	B	C	D				
I 教育課程・学力向上	1	94	6	0	0	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>各クラスやグループで検討することができるが、日々の指導に生かされているか、保護者と指導内容の確認ができていかなどより意識を必要がある。【小学部】</li> <li>保護者との共通理解が十分に図れているか。常に意識して取り組む必要がある【中学部】</li> <li>今年度もチーム検討の期間を確保できた。個別の指導計画の作成、評価に係る検討は、行事予定の中で確実に時間を確保し、チームで検討できる環境をつくることを継続していく。【教育課程】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程</li> <li>各学部</li> </ul>
	2	52	45	3	0	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画を、前期、後期の2期制にしてはどうか。保護者のニーズに応えるため、また、幼児、児童、生徒の実態を把握するためにも、じっくり時間をかけて評価を行うことが大切ではないか。【高等部】</li> <li>特に「自立活動」の個別の指導計画の作成について、実態把握から目標設定に至る作業や取組についてその在り方を教職員間で共有していく必要がある。そのための場や時間を設定して、ミニ研修などで意識化を図っていくのがよい。【教育課程】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程</li> <li>各学部</li> </ul>
	3	48	48	3	0	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>実態把握から出てきた課題及び指導内容をクラス及び学部で共有することがまだまだ不十分である。一人ひとりが意識をして、取り組む必要がある。【小学部】</li> <li>問題なく行えたと感じている【中学部】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立活動</li> <li>各学部</li> </ul>
	4	15	85	0	0	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>抽出授業から児童の実態や効果的な指導法などを学び、個別の授業にも生かすことができた。主指導者だけではなく、グループで話し合う機会が必要である。自活担当は、学部内での活動はある程度機能していたが、他学部との連携はなかった。どのように自立活動を指導の中に取り入れていくのか、体制、組織編成など学校単位で取り組む必要がある。【小学部】</li> <li>自立活動担当が機能するための全体の構造化が必要【中学部】</li> <li>病院、福祉と連携しながら指導ができた。さらに、積極的な連携が必要である。【高等部】</li> <li>教育支援部と各学部の自立活動担当の連携をさらに進め、校内の指導・支援、個別の指導計画の作成等について、力を発揮できるような体制づくりを進める。【教育支援部】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立活動</li> <li>各学部</li> </ul>
	5	91	9	0	0	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ねらいや目的を明確にした学校行事・学部行事・校外学習を行い、個々の成長につなげている。【小学部】</li> <li>生徒の実態を配慮しつつ、修学旅行、校外学習の行先等、小、中、高でつながりのあるものにした。【高等部】</li> <li>問題なく行えたと感じている【中学部】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学部</li> </ul>
	6	36	61	3	0	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校での活動ができない中で、ささよう展の共同作品を通して全校生の繋がりを持たせることができた。【児童生徒活動部】</li> <li>子どもの実態に応じて必要最低限の支援を行いつつ、子どもができる範囲のことに今後も取り組みたい。【児童生徒活動部】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒活動</li> </ul>
	7	39	58	3	0	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>回数は少なかったが、JAの職員の方に来ていただき、黒豆の苗植えを教えていただいた。このような活動を少しずつ増やしていきたい。【小学部】</li> <li>ふるさと教育は？だが、作業学習、自然体験活動での体験活動、マエストロ招聘(音楽)で外部講師に来ていただき、体験的学習ができた【中学部】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学部</li> </ul>

Ⅱ キャリア教育・進路指導	8	基本的な生活習慣や生活リズムの確立を図り、自立への基礎的な力を育成している。	76	24	0	0	A	<p>身辺自立や生活リズムの確立を目標にして、チームで取り組むことができた。【小学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマホ、ゲーム等の使い方について、家庭と連携しながら進めていくことが難しかった。【高等部】</li> <li>・保護者と情報交換しながら適宜行えた【中学部】</li> </ul>	・各学部
	9	キャリア教育「つきたい力」リスト・個別のチェックシート等をもとに、発達段階に応じたキャリア教育を推進し、授業改善に取り組んでいる。	33	61	6	0	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月からチェックリストの項目の見直しを行ってきた。外部より新規に入学してくる新入生用として基礎機能を最初から削除したもの、幼・小学部用として就労に直結するような項目を非表示にしたものに作り替えた。来年度初めに提案する。【キャリア教育】</li> <li>・今年度初めにチェックリストの利用について提案した。幼児生の評価に終始するのではなく、それを根拠に自立活動や合わせた指導、特別活動等々の学習指導計画に生かしていくことで初めて意味が生じる。【キャリア教育】</li> <li>・項目数が多いことは、これまでから話題に挙げて委員会内でも話し合ってきた。項目(21)とも関連するが、何をもってキャリア教育と見るのか、幼児生の実態の幅が広すぎ、結果、整理できないのが現実である。時間がとれるのならば個々のチェックリストを複数人で話し合い。幼児生個々のチェックリストまで高められればいいのかもしれないが、現実的ではないような気もする。【キャリア教育】</li> <li>・高等部から入学する生徒などにとっては、項目が多く、チェックしたり、削除することに時間を費やした。高等部から入学する生徒用のものがあたらうらしい。【高等部】</li> <li>・チェックリストを活用して自立活動の目標を立てやすいように、重点目標と6区分がリンクできればよい。【高等部】</li> </ul>	・キャリア教育
	10	作業学習、職場・施設実習、自然体験等を中心に、体験的な学習の充実に努めている。	82	18	0	0	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細かく丁寧に事前指導をすることによって、見通しをもって修学旅行や自然体験活動に取り組むことができた。教員も見通しをもって活動に取り組めるように努めていく。【小学部】</li> <li>・問題なく行えたと感じている【中学部】</li> </ul>	・各学部 ・進路
	11	外部関係機関との連携を密にして、一貫性のある進路指導ができています。	50	44	6	0	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業・事業所の本校への理解・支援のもと高等部現場・施設実習が1年生の段階から実施できている。【進路】</li> <li>・関係機関との連携のもと卒業後もアフターフォローができています。【進路】</li> <li>・進路担当と報告・連絡・相談しながら進めることができた。【高等部】</li> </ul>	・進路 ・高等部

Ⅲ 防災安全・危機対応・生徒指導・地域との連携	12	学校事故や災害時等の緊急事態発生時の対応・体制づくりが図られている。	91	9	0	0	A	・各種マニュアルを整理し、すぐ把握できるように職員室前と校長室に設置した。【総務】	・総務
	13	定期的な安全点検の実施、施設・設備の安全管理が図られている。	85	15	0	0	A	・学期ごとにペアを交代しながら、常に複数で施設・設備の点検ができています。【総務】	・総務
	14	シミュレーション研修、救急法の研修等、関係諸機関と連携して、教職員の実践的な研修や訓練ができています。	94	6	0	0	A	・スクールバス内での実際のシミュレーション研修はできなかったが、添乗員と運転士、総務部の教員で緊急時の対応について、確認と心肺蘇生、AED講習を行うことができた。年度初めにも簡単な講習を行いたい。【総務】 ・全職員が臨機応変に動けるように、救急体制のシミュレーションを医ケア生だけでなく、その他の幼児生を対象にしたシミュレーションも年に2回か学期に1回は行った方が良い。【学校保健安全】	・総務 ・保健
	15	保護者や関係機関との連携を図り、適切な医療的ケアや保健指導が推進できている。	94	6	0	0	A	・感染予防対策をもう少し統一できればよかった。【学校保健安全】 ・医ケアに関する報告を、職朝や職員会議、学部会等において、昨年度よりこまめに行うよう心がけた。医ケアを組織的に進めていくことの重要性を、共通理解できたと感じる。今後も、保護者や関係機関と連携しながら、医ケア児が安全に在籍できるように推進していく。【校内医ケア推進委】 ・業務委託という形で訪問看護ステーションと連携する中で、基本的な考え方や方法が違うことがある。学校のことを理解していただき、同じ方向性で推進していけるよう、市教委とも連携しながら取り組む。【校内医ケア推進委】	・医ケア ・保健
	16	教職員もPTA活動に参画し、PTA事業の充実を図っている。	6	59	35	0	B	・コロナ感染防止上、できていない【中学部】	・各学部
	17	学校運営協議会を通して、地域との連携強化に努めている。	76	21	3	0	A	・コロナ禍が続いている中であるが、学校運営協議会を通して具体的な活動(熟議、ささよう音楽会等)を展開できた。	・学校改革
	18	いじめ、不登校をなくすことをめざし、きめ細かな生徒指導が全教職員共通理解のもと推進できている。	24	76	0	0	B	いじめ事案は今年度もアンケートでは確認されず、保護者やデイサービスからの情報提供もなかったことはよかった。不登校生への対応については、通常登校できるように子がいる反面、改善が見られなかった子もいるため、B評価が多いのは仕方がないと感じている。当然、今後も定期的な家庭訪問や面談などは継続するが、通常登校できるようになる可能性は極めて低い。しかし、登校できなくても、家庭で心穏やかに生活しているのであれば問題はないと考える。	・生徒指導

IV 教職員の 資質向上 研究推進	19	特別支援教育研究者や福祉関係者との交流・研修を積極的に行うことで、高い専門性を追求している。	18	79	3	0	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度末の学校評価結果をもとに、「研修内容についてのニーズの検証をしてその結果を研修実施に活かす」という改善策を立て、そのように実践した本年度だった。</li> <li>・学校が主体となった研修会が「積極的」ではないということであれば、回数を増やすことが必要になるが、それはそれで「研修が多い」という声に對峙することになる。皆さんはそのあたり、どのようなバランス感覚でおられるのだろうか。</li> <li>・本年度1月期以降、関西国際大学の中尾教授による自主研修を開催するが、BやC評価の方々にはぜひそれに参加していただき、積極的にスキルアップをしていただきたいと考える。また、年2回実施している児童発達支援センターとの個別連絡会は、「福祉関係者との交流・研修」にあたりと捉えて差し支えないと思う。</li> <li>・そして、専門性を高めていくためには、あてがわれた(=学校等が準備した)機会だけではなく、各自が自分の興味関心に基づいて、学校の動きとは違う研修を体験することも大切だと考える。そういう意味での、BとCの数値であるにとらえてもいいのだろうか。</li> </ul>	・教育支援
	20	教職員の資質や専門性の向上を図るため、計画的な校内研修を実施している。	53	47	0	0	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育の専門性を高める研修、教員としての力量を高める研修など、研修は多岐にわたるので、それらがバランスよく実施できるよう、来年度も計画をしていきたい。【研推】</li> <li>・15分程度で行うミニ研修を増やすことも検討する。【研推】</li> <li>・今年度の校内研修の数をベースに、来年度も計画していく。校内研修の枠ではないが、自主研修会も企画され、教職員のライフステージに合わせた、また教職員が主体的に取り組む研修も合わせて行っていく。【研推】</li> </ul>	・研推
	21	継続的にキャリア教育の研修を実施している。	18	82	0	0	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校におけるキャリア教育をどう定義づけるか、高等部卒業後を見据えた自立というイメージはあるが、一般就労をめざす子、生活介護でより良い暮らしをめざす子、その時その時を大切に生きる子など幼児生の実態の幅がとても大きい。一本筋を通したキャリア教育の計画を立てたいがそうも行かず、チェックシート等の具体化にも影響を及ぼしている感がある。【キャリア教育】</li> </ul>	・キャリア教育
	22	研究テーマに沿って、授業力向上に向けた、主体的な授業研究ができています。	71	29	0	0	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業研究にグループで取り組むことができた。研究テーマに沿って、実態把握から授業づくりはどうつなげていくのか、検討を重ね、授業を行い、反省をすることができた。【小学部】</li> <li>・授業力向上のため、プチ研修の機会を増やしてはどうか。他学部の授業を見る機会も大切にしたい。【高等部】</li> <li>・個々の主体性に任せている部分が多かった【中学部】</li> <li>・全職員が必ず1つは授業をフルで参観できるように参観体制を整えたい。事後研修会で研究テーマに沿って活発な議論が出るような研修のあり方を考えていきたい。【研推】</li> </ul>	・研推 ・各学部
	23	個々の課題や目標を明確にし、教職員のライフステージに応じた研修ができています。	38	62	0	0	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりは、一人ひとり自覚をもって、自主的な研修に取り組むことができた。【小学部】</li> <li>・個々の主体性に任せている部分が多い【中学部】</li> </ul>	・各学部

V 課題教育	24	教育活動全体の中で、相手を思いやる心を育て、生命の尊厳や人権尊重の精神を育成している。	70	30	0	0	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、手話講演会、学習会を行った。児童生徒だけでなく、教師自身が知らないことが知れ、「耳が聞こえにくい、聞こえない」人についての理解が深まった。【教務部】</li> <li>・できれば、福祉に関する学習、国際理解に関する学習の両方を行う方がより充実した思いやりや人権の学習につながるのではないかと。毎日の授業や日々の指導・支援の中で人権尊重を意識して教職員が子どもと接することがまず大切である。【教務部】</li> </ul>	・教務
	25	発達段階に応じて、情報モラルの教育に取り組んでいる。	26	74	0	0	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学部、高等部対象の情報モラル学習会を実施し、トラブルを回避するためのポイントや、万一トラブルに巻き込まれてしまった場合の対処法を知ることができた。継続的に実施できるように、計画的に進めていきたい。【情報】</li> </ul>	・情報
	26	給食指導を中心に、家庭と連携した食育の充実が図られている。	62	38	0	0	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・懇談だけでなく連絡帳等でも給食の様子について記入するなど、普段から保護者と連携を密にして取り組んでいる。食生活相談や摂食指導学習会で、具体的なアドバイスを受け、家庭と学校の給食の両方で取り組めることが増えた。【食育】</li> <li>・保護者の協力や参加があれば、より改善につながるのと、保護者には事前に相談したり、積極的に声をかけをしたりする。【食育】</li> <li>・食生活相談や摂食指導学習会の内容を、学部会や職員会で周知し、情報共有する。【食育】</li> </ul>	・食育
	27	居住地、隣接校交流及び共同学習は、連携を深め、ねらいや活動内容を明確にした交流、共同学習となっている。	91	9	0	0	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流担当者会議を本校で行うことができ、年度を通じて副籍校への居住地校交流並びに、隣接校交流を執り行うことができた。【保体】</li> </ul>	・保体
	28	発達段階に応じて、安全教育・保健指導を実施し、安全で健康な生活が出来る基礎的な能力を育成している。	71	29	0	0	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シェイクアウト訓練が様々な時間帯で実施され、幼児生の身を守る動きが素早くとれるようになるなど、今までの積み重ねの成果が見られた。今後も続けていきたい。【総務】</li> <li>・交通安全教室が早・小学部は歩行、中・高等部は、自転車の乗り方について学習できた。内容については検討していく。【総務】</li> <li>・保健指導について、担当としての旗振りは十分にできていなかったと反省するが、先生方が、担当する子どもたちの実態に合わせた内容と方法で取り組んでいただいた。【学校保健安全委】</li> </ul>	・総務 ・保健

VI 学校運営・学校管理	29	学校教育目標・指導の重点を意識し、その具現化に向けて取り組んでいる。	56	41	3	0	A	・昨年度末はA:31%、B:69%だったので、昨年度よりも改善されたことが推測される。月目標をモニターに出して、目にする機会を増やすことや、生徒指導委員会からのメッセージ等、子どもへの指導を中心に私たちのスタンスが少しずつ改善されてきていることがうかがわれる。来年度も教職員が意識できる取組や実践や指導の共有をしていくことが必要である。	・学校改革
	30	各種委員会・各部会の組織を強化し、学校運営の活性化に努めている。	71	26	3	0	A	・月曜日の下校が早くなったことで、部会が各種委員会と同日の日でも勤務時間内に部会を終了することができた。(昨年度までは勤務時間外に終了することが多かった)【総務】 ・教育課程委員会と教務部は同時に会議をすることで、時間の短縮と焦点化した時間をかけての検討や議論も出来た。難しいが、各部会の中に各種委員会が組み込める組織や校務分掌の分担が出ればよい。【教務部】 ・委員会で話し合ったことを他の部会や委員会につなぐ機関がない。組織の関連づけができないか...と思う【キャリア委員会】	・各部会 ・委員会
	31	学校評価をもとに、教育活動の成果と課題を検証し、改善が図られている。	74	24	3	0	A	・評価項目や内容を継続して検討し、計画的に学校評価の取組を推進している。【教務部】 ・今年度課題となったことや改善すべきことを、職員会議において全職員で確認し、来年度初めに、新しい組織の中で再度確認する。学校教育改革委員会と連携し、9月から10月に課題改善に向けた取組や活動ができていくか簡単な中間評価を行っていく。【教務部】	・教務
	32	定期的な学校だより・学部通信等の発行、HPの内容の更新など、保護者や地域への情報発信ができていく。	97	3	0	0	A	・来年度もこの状況を継続する。	・学校改革
	33	市内の学校園に対して、専門的な支援や助言を行うなど、特別支援教育のセンター的役割を果たしている。	82	15	3	0	A	・昨年度、A:81%、B:19%だったので、この評価は本年度も変わらない。年々ニーズが増えている中で精一杯対応している現実がある。来年度も市内学校園からのニーズに対応していきたいと考える。	・教育支援
	34	ケース会議、研修会、各種行事等を活用して、外部関係機関との情報共有化を図り、連携強化に取り組んでいる。	71	29	0	0	A	・昨年度、A:55%、B:45%だったことから考えると、評価が上がったとみなしてよい。実際に、高等部生徒のケースからは、教育と福祉によるチーム支援、チームによる連携強化が実ったことがうかがえる。今後も、連携事例を全職員に伝えていくことが期待される。	・学校改革
	35	学校予算の適正な計画・執行、備品や施設の管理及び充実・改善に努めている。	91	9	0	0	A	・各部や各委員会から意見集約を図り、予算の計画的な執行、備品の充実に努めることができた。購入した備品についてもおおむね適切な管理ができた。	・事務
	36	教職員の勤務時間や働き方を意識し、業務改善に取り組んでいる。	26	74	0	0	B	・昨年度A:33%、B:63%だった。若干ではあるものの、A評価が減少している。これまでも工夫してきてはいるが、A評価が増えないのは、どういう現実と理由があるのかについて、検証する必要がある。また、検証して工夫したとしてもA評価が増えないのであれば、校内の取り組みだけではどうしようもないことが根底にあるのかもしれない。 ・ここ数年かけて、様々な角度からかなりのスリム化を図ってきた。まだその余地は残っていると思うが、ここまできると、「仕事に優先順位をつけること」「何が本当に必要なのかを考えること」など、個人の仕事に取り組む姿勢のような気がする。	・学校改革